

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200152		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム ふじのかわ		
所在地	〒027-0029 岩手県宮古市藤の川11番5号		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふじのかわは、宮古市中心部から少し離れた高台で、目の前には、宮古湾が見える見晴らしの良い場所にあります。当ホームは、2階建ての住宅改修型で、和・洋室の6・8・10畳のお部屋があります。階段や段差もあるため、自宅に近い環境での生活を送ることができます。くもんの学習療法にも取り組んでいるホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての民家を改修したグループホームで、2階に5部屋、1階に4部屋の居室がある。居間や和洋の居室は一般住宅の趣があり、利用者は自宅の延長のような雰囲気の中で生活ができる。車椅子利用者もおらず、全員が介助なく食事を摂れるなど、元気で落ち着いた日々を過ごしている。学習療法を取り入れ、認知状態に合わせた読み書きや計算に職員と1対1で取り組み、満点を取ることで満足感、充足感を得られ、精神的にも安定するなどの効果を生んでいる。階段の傾斜がややきつく、また段差もあるなど、ホームの構造上、特に利用者の安全で安心な生活に留意しており、事故の発生予防や災害時の避難方法、誘導等について、職員全員による共通理解を図っている。コロナ禍収束後は、利用者が外出への意欲を取り戻してくれるよう、家族と連携、協力したいとしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、日々の生活や会議の際に、理念を共有し実践できるよう努めている。	開設後7年を経過した2017年に職員で話し合い、当初の理念を簡潔な表現に改め、併せて理念を実現するための3つの約束(方針)も定めた。理念に掲げる「その人らしさを大切に笑顔で過ごす」ことができるよう、一人一人のケアプランに方針を反映するための目標を設定するなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との関わりは減っている。散髪を地域の床屋にお願いし、2~3ヶ月に1度と頻度は少ないが、関わる機会を継続している。近所の方とは、日頃から挨拶を交わして、できるだけ関わりを持つように努めている。	地元自治会の活動に積極的に参加するようになってきたが、コロナ禍で活動がここ2年間止まっている。地域のお祭り等の行事も自粛しており、地域との交流は減少している。近隣の方々は来所を遠慮しているが、ホームの周りの清掃や冬季の雪かきなどの協力をしてくれる。市内の高等看護学院の実習を受け入れており、また、特別支援学校の生徒には社会学習の場を提供し、入浴介助等の介護のお手伝いをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生や支援学生の実習受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、宮古市の通達で2019年3月から現在も開催できない状況で、集合での会議は行っていない。会議は書面で対応している。	2ヵ月ごとに書面会議を開催している。事前に電話等で意見や提案をお願いしている。利用者の暮らしぶりや行事、研修、インシデント等、ホームの運営状況を報告している。メンバーが少人数で、ホームとしては、家族の参加を増やしたいとしている。	地域密着型の事業所として、地域の理解と支援を得ることが運営推進会議の意義のひとつです。地域代表の委員は一人ですが、地域の多様な人材の発掘が望まれます。運営報告に加え、防災等、特定のテーマを設定し、その都度、ゲストやオブザーバーを招いて話し合うことも一考と思われれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメール・FAXで連絡を取り合い、情報交換・提供を行なっている。大雨等による避難の際も、連絡を取り合い状況を報告している。現在、コロナ感染者が出た時に電話で報告している。	制度の手続き等で市役所に出向いた際に、直接担当者と情報交換を行うようにしている。待機者等利用者に関する情報も得ている。管理者が市から依頼され、小学校の認知症勉強会の講師を務めるなど、市との連携、協力は円滑に行われている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内や法人内で、身体拘束に関する勉強会や研修を行ない理解することで、身体拘束をしないケアを行なっている。	法人が主催する「身体拘束廃止適正化委員会」に管理者がメンバーで参加している。指針に基づき、法人やホームで継続的に研修や勉強会を実施し、繰り返し身体拘束や行動制限に当たる行為について確認、共有している。玄関の施錠は夜間のみとし、利用者が居室でポータブルトイレを使用する際などの転倒を防ぐため、人感センサーを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会実施。ホーム内でも勉強会を行ない、職員は、理解をしケアを行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、成年後見人制度を利用している利用者がいるため、随時、確認しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前やまたは改定時に、管理者の方で説明を行なっている。不安や疑問に関しても、面会時や電話で、その都度受けて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や、毎月ご家族に送っているお知らせの中に、意見や要望を書く欄を設けている。また、電話や面会の際に、職員の方からも何かないか？声をかけて、ご家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	利用者の日々の暮らしへの思いや希望に添うよう支援している。家族は、敬老の日、ケアプランの確認、書類等の提出で来所し、利用者と出入口で窓越しに対面しており、その際に意向や要望を伺うようにしている。広報を2ヵ月毎に発行するとともに、居室担当者が毎月、写真付きのお便りにで一人一人の暮らし振りや体調について伝え、意見、要望等を確認する欄も設けているが、運営に関する要望等は出されていない。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務会議やカンファレンスの際に、業務に関する意見交換を行なっている。また、定期的に個人面談を行ったり、申し送りノートを活用して、気づいたことなどの意見を出し合える場として活用している。	管理者は、法人の「人事評価」や「目標管理」の運用にあたり、年3回の個人面談を行っており、それに併せて業務の改善に関する問いかけをしながら意見、提案等を得るようにしている。また、月1回の職員会議や毎日の申し送りの際にも、問題提起するようにしており、職員からは、介護業務での気づきや設備、備品等の修理に関する意見が出され、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定してもらい、達成度に応じた評価と普段の仕事内容を評価表に記載し、給料等に反映している。個人面談を行うことで、個々の事情に合わせて働きやすい勤務表作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の業務会議で勉強会を行ったり、新型コロナウイルスの影響もあり、法人内研修は、eラーニング方式で研修を行なっている。介護職員初任者・実務者研修の支援制度もあり、介護福祉士取得支援も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の時は、沿岸北ブロックでの研修会や管理者会議等で交流する場が多かったが、いわて地域密着型サービス協会になってからは、コロナ禍もあり集まる機会が少なくなっている。何かあったときは、情報交換を行なっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、要望などを伺っている。入居後は、日常の行動や言葉に耳を傾けて観察を行ない、職員間で話し合って統一したケアをすることで、安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談をして、何かあれば連絡し合い、安心して入居できるよう対応している。入居後も要望や不安なことを聴き、都度対応できるように努めている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を聴き取り、ケアプランに反映して取り組んでいる。利用者の身体状態に応じて、他の介護施設利用のアドバイスをしたり、系列のグループホームや老人保健施設のサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを把握して、家事作業の声をかけを行ない、職員と一緒に作業を行なうこともある。作業後は、感謝の声をかけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況は、面会時や毎月発送しているお知らせで報告を行い、急な体調の変化時は、電話連絡を行なっている。必要に応じて、通院の同行をお願いして、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族や親戚の方にご理解いただきながら、窓越しでの面会や電話で会話できるよう、やれる範囲で支援している。	利用開始時点で既に友人、知人等との繋がりが薄れている人も多く、馴染みの関係継続支援の難しさを感じている。定期受診の病院医師や看護師に親しく声をかけてもらっている。通院の帰路、自宅や息子さんの勤務先等、馴染みの場所をドライブしながら廻ることを工夫している。2ヵ月毎の訪問理容師とお馴染みさんになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムや、利用者同士の関係性を大事にし、必要に応じて職員が橋渡しをすることで、支え合えるよう支援している。また、誕生会等の行事を毎月設定し、全員で1つの事に取り組み利用者同士が関わり合える場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあればいつでも連絡をくださるよう伝え、経過を見守っている。ご家族からの相談や問い合わせがあった場合は、関係機関へ情報提供を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の面談や日頃の話聴き、意向を把握している。意思疎通が困難な方は、生活歴・職歴を知り、日常生活で発した言葉等から、カンファレンスで意見交換して、利用者に寄り添ったケアの提供に努めている。	自分の思いや意向を表現できる利用者が多く、きちんと拝聴するようにしている。ホームの生活の中で役立つことをしたい気持ちを持つ人には、茶わん拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをお願いし、「ありがとう」と感謝の言葉をかけるようにしている。本人の希望の中には、実現が難しいものも少なくないが、職員はその気持ちを受け止めながら、代わりになることを提供、支援するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、それまでのサービス事業者の方に、生活歴や得意なこと好きなことなど聞き、入居後の支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やケアチェック・バイタルチェック表等を活用して、職員一人ひとりが現状を把握し、情報共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで、職員から意見や提案を募り、ケアに反映させている。ご家族にも面会時や電話・メール等で状況説明して意向を伺い、介護計画を作成している。	毎月、担当職員のモニタリング資料をもとに全員でカンファレンスを行っており、目標と現実に齟齬がないか確認している。ケアプランは3ヵ月毎に評価を行い、見直しが必要な場合は、家族にプラン変更の必要性を説明するとともに希望や意向も確認のうえ、変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の利用者の言動を把握して、ケース記録へ記入している。気づいたことを申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有して介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、他の介護施設の特徴を説明して、必要時には転居できるようにしている。			

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方に挨拶をして、会話をする機会を作っている。火災・災害時の協力体制もあり、安全に暮らせるように協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿って、受診先を決めている。特に希望がない時は、ホームの協力医の説明をし、納得した上で受診している。	殆どの利用者が利用開始前からのかかりつけ医に継続通院している。予約制を採用している個人病院が多く、電話で状況を説明、スムーズな通院になっている。通院の付き添いは原則家族としているが、職員が同行することが多い。通院結果を家族に報告している。法人系列の訪問看護師と契約し、週1回来所してもらい、バイタルチェック資料の確認や相談、指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来設。体調不良時は、24時間連絡できる体制が整っており、相談・指示を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療ができるように、入院先の主治医・担当看護師に病状経過を聞き、医療連携室職員と連絡を取り合い退院調整を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは、看取りを行っていないが、本人・家族へホームでできること、できないことの説明を行ない、必要に応じて老人保健施設の転居を勧めている。	民間会社の寮を改修した2階建てで、所々に段差があり、浴槽も深いなど、構造上の問題から重度化の進み具合によっては、他施設転移を相談しながら進めること、また、看取りは医療連携が難しいことからホームとして対応出来ないことを利用開始時に本人、家族に説明し、同意を得ている。現在のところ、元気な利用者が多く、日々身体を動かし足腰が弱らないよう支援に努めているが、家族とは、定期的に情報交換を行いながら、終末期を支えるための話し合いを早い段階から進めている。	

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等に備え、全職員が救急救命講習会へ2～3年に一度の頻度で受講し、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、地域の方を交えた消防避難訓練の実施は難しくなっているが、年2回の消防避難訓練は行なっている。災害訓練も年1回行なっている。台風の影響で、ほほえみの里への全員避難を何度か行なっているため、ほぼ全職員が避難方法を身につけている。	春は火災通報訓練、秋には夜間想定火災避難訓練を実施している。避難場所の中学校への避難通路が新たに出来たことから、避難ルートに設定することになっている。前回の自己評価と外部評価をもとに、「目標達成計画」として1階で火災が発生した際、階段に防煙シールドを設置することを消防署に相談したが、効果が期待できないと指摘され取り止めた。災害に備え、火災報知器、スプリンクラー、自家発電装置等を設置し、食料、備品等は定期的に入れ替えを行っている。	全職員が避難方法を共有していることは評価されますが、木造で2階にも居室があり、有事の際の迅速な避難に向け、定例の避難訓練のみならず、利用者の運動や散歩も兼ねて、避難経路を誘導するミニ訓練を繰り返し実施されることが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格や認知症状を理解し、自尊心を傷つけないように声がけ・介助を行うようにしているが、利用者のことを理解できていない職員がいて、その職員の発言で自尊心を傷つけている時もある。	職員は介護に当たり、さり気ない言葉かけや誘導等の対応を心がけているが、言葉遣いや語調で自尊心や誇りを傷つけ、利用者に拒否反応を示される職員がいる。本人はそのことを理解していないため、職員間で「利用者の人格を尊重する」ことが介護の基本であることを示しながら、当該職員をサポートするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、意思表示できる声がけや選択肢を掲示して、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、なるべく本人がしたいことを行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に1回程度、ホームへ理髪店に来てもらっている。会話ができる利用者には、理容師とどのようにカットしたいか？直接やり取りをしていただき、本人の希望に沿ったヘアスタイルにしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は、食事の際に使用するおしぼりや食器拭きを職員と会話をしながら一緒に行っている。行事や個別の誕生会には、本人に食べたいものを伺い、食事が楽しめるような支援をしている。	利用者のリクエストも活かしながら、1週間分の献立を調理担当の職員が作成し、調理を行っている。週2回買い出しを行い、食材を揃えている。実家が農家の職員からの差し入れも活用している。敬老会では、お寿司の出前を取ることが恒例になっている。刻み食の人もいるが、全員自分で食事ができ、見守り中心の介助になっており、現在は、コロナ感染防止の観点から職員と一緒に食事を摂ることは中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士から栄養バランスの指導と、主治医から病状や採血結果で、食事・水分量の指示を受けて対応している。水分が取れない方には、本人の了解を得て、お粥にして水分が取れるよう工夫している。また、摂取量の記録を取り、状態管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、系列の施設から歯科衛生士が来設し、利用者の口腔内を診てもらい、利用者一人ひとりの口腔ケアについて助言・指導していただき、日々のケアに活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスで、日中・夜間の排泄パターンを確認し、変化のある時は、オムツの種類を変更するなどの対策をとり、おむつの削減や個々の状態に合わせた対応をしている。	日中は全員トイレで排泄しており、自立している1人を除き、誘導をさりげなく行い、リハビリパンツの上げ下げ等の介助を行っている。夜間は、ポータブルトイレ使用が4名、おむつ使用が1名いる。排泄動作の改善や失禁等の不快な思いを少なくするよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量の把握やオリゴ糖を摂取すること、便秘の状況を主治医へ報告し、適した内服薬を処方してもらうことで排便がある。食事の際、早食いで丸呑みしているような利用者には、少しでも消化が良くなるように刻み食を提供するなど個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	年々、持病や体力の低下により、入浴が難しくなっている方や、入浴が負担(拒否)の方もいる。本人の体調や意向を取り入れて、シャワー浴にしたりするなどして、できるだけ入浴を楽しんでいただけるよう、柔軟に対応している。	浴槽が深いため、浴槽台や手摺り、シャワーチェア等の福祉用具を活用し、安全に入浴してもらっている。毎日入浴できる体制にしており、週2回以上、午後を基本に、行事の際は午前中に入浴してもらっている。入浴後に水分補給とともにお菓子を提供し、入浴を楽しめるものになっている。	

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさや室温など調整し、ゆっくり休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、いつでも確認できるように、事務所に通院録と一緒に保管している。変更時は、通院録や申し送りノートに記載し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを把握し、活かすことができるよう支援している。また、好きなお菓子や飲み物で、気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出頻度は減っている。以前は、ご家族との外出をしていた利用者も、面会制限をしているためできていない。職員の方で、初詣や花見・天気の良い日を選びドライブをして、気分転換を図っているが、全員は行っていない。	コロナ禍で思うように外出できていない。近隣の散歩も坂道が多く、慎重に対応している。利用者からの外出要望が減ってきており、職員から誘って、お花見に市内の桜名所巡りを行った。通院後のミニドライブを楽しんでもらうなど、出来るだけ外出の機会をつくるよう支援している。最近では、入港している大型客船がホームから望まれたことから、見物に出掛けた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、個人の所持金に関して管理していない。現在、入居している利用者で、現金を所持している方もいるが、本人の欲しいものは、ご家族が持参したり、ホームのお金で立替えて購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望で電話をかけたり、受けたりの支援は行っている。ご家族から手紙や年賀状が届いた時には、返事が書けるように支援している。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事や、季節感を感じて頂けるよう、利用者と一緒に装飾することもある。共有スペースの食事席・長椅子・ソファは、自由に使えるようになっており、気の合った利用者同士で、会話をし楽しく過ごせるようになっている。壁には、各利用者の写真が掲示してあり、利用者同士の話題作りの1つになっている。	1階の和風で家庭的な感じのする居間には、3、4人掛けの食卓、長椅子、ソファが配置され、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。職員が利用者同士の会話の橋渡しをするなど、仲間入りをして賑やかなひと時を過ごすこともある。利用者の表情豊かなスナップ写真を飾り、話題提供をしている。エアコンやサーキュレーター、加湿器等で適切な温湿度管理が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にあるソファでは、気の合う方と会話をしたり、一人になりたい時は、居室で過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話しながら、好きな物・希望の物を使用できるよう、また、家族からの写真などを飾り、居心地の良い空間作りを心がけている。	居室にはベッド、タンス、オイルヒーターが設置されており、多くの居室には、前の所有者が残した立派な家具が置かれている。1階は6畳3室と8畳1室、2階は6畳2室と10畳3室になっており、比較的広い居室が多い。2階や階段の様子が確認できるようにモニターカメラを設置している。冬季は電気毛布を用意している方もいる。忘れないで欲しいという家族の願いからたくさんの家族写真が飾られている居室もあり、家族の協力を得て、自分好みの部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かるように張り紙をすることで、場所が分かるようにしたり、階段には滑り止めマットを敷き、両サイドに手すりがあることで、安全に昇降できるようにしている。		